

ガステーブル火災に注意しよう

平成 26 年中の火災 4,804 件（治外法権火災 1 件を除く。）のうち、「ガステーブル等¹⁾」による火災は主な出火原因の第三位ですが、住宅火災²⁾ 1,694 件の出火原因では第一位でした。ガステーブル等は例年、火災の原因の上位を占めています。

身近な調理機器であるガステーブル等は、日常的に使用することから火災に繋がるという認識が薄れがちですが、延焼火災に至る火災も多く発生しています。

ガステーブル等からの火災を防いで身近な火災から身を守りましょう。

住宅火災におけるガステーブル等の火災状況

◆ 火災件数

過去5年間の住宅火災の主な出火原因を年別にまとめました（表1）。平成 26 年中の主な出火原因をみると、最も多いのが「ガステーブル等」の 387 件で、毎年、ワースト1になっています。



ガステーブルによる火災

年 別	主 な 出 火 原 因												
	合 計	ガステーブル等	たばこ	放（疑い含む。火）	電気ストーブ	ロウソク	電気こんろ	コード	ライター	石油ストーブ等	火遊び	その他	
平成 22 年	1,869	410	331	274	84	43	39	38	21	17	26	586	
平成 23 年	1,864	395	329	250	103	49	40	33	29	27	26	583	
平成 24 年	1,916	409	334	255	106	53	33	44	17	28	16	621	
平成 25 年	1,777	388	316	257	99	47	25	28	18	27	19	553	
平成 26 年	1,694	387	297	205	95	50	32	26	23	20	8	551	
26 年 内 訳	共同住宅等	1,060	244	210	158	66	32	28	12	17	7	7	279
	住宅	634	143	87	47	29	18	4	14	6	13	1	272

表1 住宅火災の主な出火原因の状況

1) ガステーブル等とは、ガステーブル、ガスこんろ、ガスレンジ及び簡易型ガスこんろをいいます。
 2) 住宅火災とは、住宅、共同住宅、寄宿舍及び複合用途の住宅部分から出火した火災をいいます。

住宅火災におけるガステーブル等の火災は最近5年間で1,989件、死者は27人発生しています。火災件数は、減少傾向で推移していますが、火災による死者は増減を繰り返しており、最近5年間では年平均5人以上の死者が発生しています。

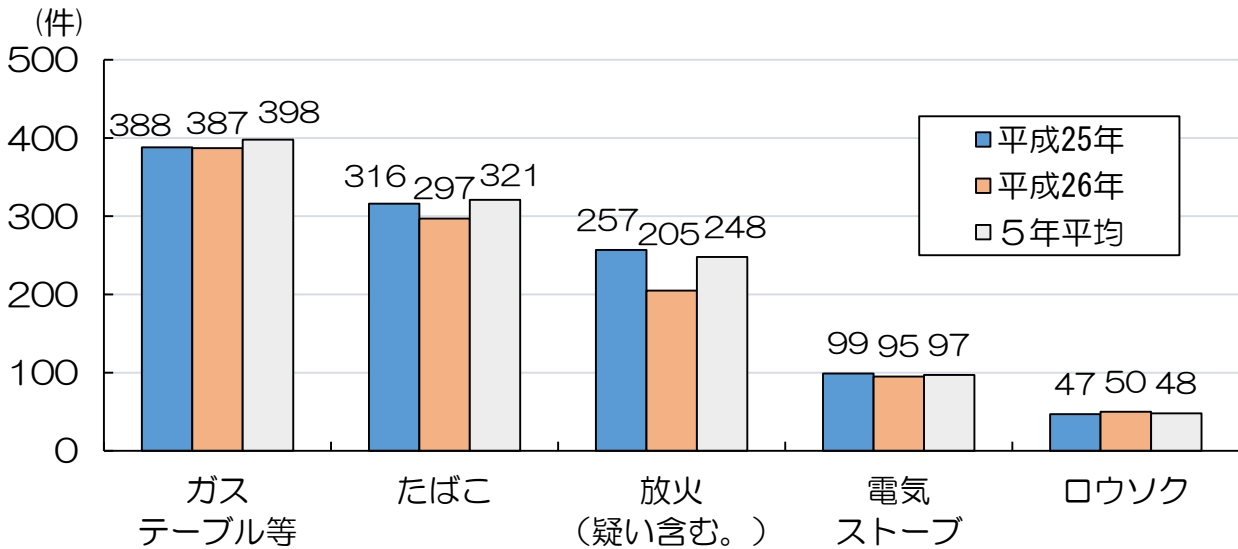


図1 住宅火災の主な出火原因別の状況（上位5位）

◆ 火災に至った経過

最近5年間の住宅火災におけるガステーブル等による火災の火災に至った経過をみると、調理中にその場を離れたり、調理後に火を消し忘れる「放置する・忘れる」が最も多く、5割以上(52.8%)を占めています（表3）。

また、死者の発生した火災の経過をみると、ガステーブル等の周囲の可燃物や着ている衣類に着火する「可燃物が接触する」、「接炎する」が多く発生しています（表4）。

ガステーブル火災の主な経過	件数
放置する・忘れる	1,050
可燃物が接触する	210
接炎する	175
引火する	155
過熱する	112
考え違いにより使用を誤る	73
誤ってスイッチが入る（入れる）	70
可燃物が落下する	26
可燃物が沸騰する・あふれ出る	22
伝導過熱する	19
放射を受けて発火する	17
可燃物を置く	16
本来の用途以外の用に用いる	6
その他	24
不明	14
合計	1,989

表3 主な出火に至った経過

死者が発生した火災の主な経過	件数
可燃物が接触する	11
接炎する	7
放置する・忘れる	5
本来の用途以外の用に用いる	1
不明	3
合計	27

表4 死者が発生した主な経過

◆ ガステーブル等の火災による死者

最近5年間の住宅火災におけるガステーブル等の火災による死者は、最近5年間で死者27人が発生しており、このうち着衣着火による死者は11人(40.7%)で、男性8人中7人、女性は3人すべてが高齢者で、着衣着火による死者の高齢者の割合は90.9%になります(表5)。

最近5年間のガステーブル等の火災による死者27人を、男女別、年齢区分構成別でみると、男女別では男性が6割以上(63.0%)を占めており、年齢区分構成では高齢者が7割以上(74.1%)を占め、高齢者の男性が12人(44.4%)で最も多く発生しています(表6)。



ガステーブル等による着衣着火の実験状況

年別	ガステーブル等の火災件数	ガステーブル等の火災による死者	ガステーブル等の着衣着火による死者
平成22年	410件	2人	-
平成23年	395件	5人	3人
平成24年	409件	9人	1人
平成25年	388件	6人	4人
平成26年	387件	5人	3人
合計	1,989件	27人	11人

表5 最近5年間のガステーブル等による着衣着火火災状況と死傷者数

年齢区分	男	女	計	構成比(%)
未成年	-	-	-	-
成人	5人	2人	7人	25.9
高齢者	12人	8人	20人	74.1
合計	17人	10人	27人	100.0
構成比(%)	63.0	37.0	100.0	-

注 未成年：0～19歳 成人：20歳～64歳 高齢者：65歳以上

表6 最近5年間のガステーブル等の火災による死者の状況

天ぷら油火災の状況

「天ぷら油火災」とは、ガステーブル等を使用し、天ぷらやフライ等の揚げ物の調理に起因して「放置・忘れる」、「沸騰する・あふれ出る」などの経過（器具の誤操作等を除く。）により、調理用の動植物油から出火して火災となった住宅火災をいいます。なお、凝固剤に関係する火災も含まれます。

◆ 火災件数

ア 年別火災状況

最近5年間の天ぷら油火災の火災状況をみると、天ぷら油火災は減少傾向で、平成26年中の発生件数は126件で前年と比べて13件の減少となっています（表7）。

年 別	建 物 火 災					損 害 状 況				
	合 計 (件)	全 焼 (件)	半 焼 (件)	部 焼 (件)	ぼ や (件)	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者 (人)	負 傷 者 (人)
平成22年	211	1	3	41	166	302	189	55,831,786	-	96
平成23年	142	2	3	27	110	327	249	43,824,741	-	63
平成24年	141	-	2	16	123	157	62	32,574,161	-	54
平成25年	139	3	-	26	110	554	120	70,111,287	-	60
平成26年	126	2	2	13	109	446	320	68,630,905	-	55

表7 天ぷら油火災の年別状況

イ 初期消火状況

平成26年中の天ぷら油火災の初期消火従事率(火災件数に対する初期消火従事件数の割合)は91.2%と火災全体の初期消火従事率(61.5%)と比較すると高くなっています。天ぷら油火災では、行為者が火を使っているという意識があることや、火を使っている場所の近くにいることが多く、住宅用火災警報器などの鳴動、煙や物音、臭いなどで火災に早く気づき、初期消火に従事することが多いのが特徴です。

また、平成26年中に住宅用火災警報器が鳴動した天ぷら油火災は25件発生し、このうち21件(84.0%)がぼやで消し止められており、すべて初期消火が行われています。

ウ 死傷者の状況

平成26年中の天ぷら油火災での死傷者の状況をみると、死者の発生はなく、負傷者は55人で、前年と比べて5人減少しています。負傷者55人のうち初期消火中の負傷者は22人(40.0%)となっており、水をかけて消火するなど不適切な消火方法や火のついた鍋を運び出そうとして床に落としたりするケースが多いのもこの火災の特徴です。

エ 調理油過熱防止装置

平成26年中に発生した天ぷら油火災126件のうち、発火源がガステーブルの火災は107件(84.9%)で、全体の約8割以上を占めています。ガステーブルでの天ぷら油火災を未然に防ぐ有効な手段の一つとして、「調理油過熱防止装置」があげられます。これは、バーナー中心部のセンサーが鍋底の温度を感知し、約250℃になると自動的にバーナーを消火して油の発火を防ぐものです。

発火源がガステーブルの火災 107 件のうち、67 件 (62.6%) が「過熱防止装置」有のガステーブルで出火していますが、そのうちの 60 件 (89.6%) は「過熱防止装置」が付いていない側のコンロを使用したため発生した火災となっています。「過熱防止装置」が付いている側のコンロで火災になる例としては、冷凍食材等が鍋底中央に接していて温度検知ができなかった。調理油が少量で急激に加熱された、センサーや鍋底に油かすが付着していたなどが挙げられます。

平成 20 年 10 月から、家庭用ガスコンロ（カセットコンロを除く。）を「ガス事業法」及び「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」によって規制対象製品に指定し、全てのバーナーに「調理油過熱防止装置」及び「立ち消え安全装置」の設置を義務化し、安全性の強化が図られています。

オ 時間別発生状況

最近 5 年間の天ぷら油火災 759 件のうち、出火時間が不明の 9 件を除いた 750 件の時間別の火災状況をみたものが図 2 です。出火した状況をみると、17 時～18 時台 100 件を超え、19 時～20 時台の時間帯には 150 件を超えています（図 2）。

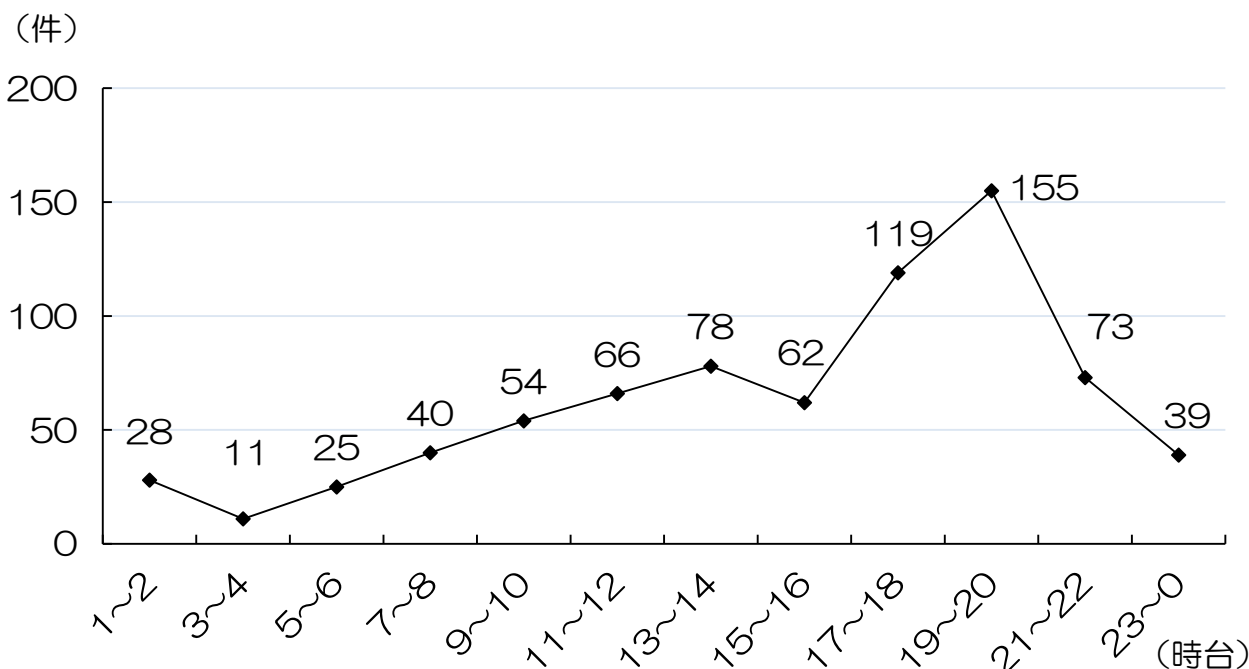


図 2 時間別の火災状況（平成 22 年から平成 26 年までの累計）

◆ 行為者と出火理由

ア 年齢別発生状況

平成 26 年中の出火時の行為者の状況をみると、「住宅」では 65 歳以上が 20 件 (47.6%) と最も多くなっている一方、「共同住宅等」では 30 歳代及び 40 歳代が各 19 件 (22.6%) と最も多くなっており、住宅よりも共同住宅等では、比較的若い単身者や夫婦のみの世帯が多いためと考えられます（表 8）。



天ぷら油により発生した火災

出火用途 (単位：件)	年 齢 区 分								
	合計	15歳以下	16歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
合計	126	3	3	19	24	24	11	9	33
共同住宅等	84	2	3	17	19	19	7	4	13
住宅	42	1	-	2	5	5	4	5	20

表8 平成26年中の用途別年齢別発生状況

イ 用途別出火理由

平成26年中の天ぷら油火災のうち、経過が「放置する・忘れる」により出火した104件について、出火理由をみてみます(表9)。

出火に至った理由は、「他の部屋で仕事をした」が17件(16.3%)、「テレビを見た」が14件(13.5%)、「食事をした」が12件(11.5%)などとなっており、油が温まるまでの間に少しだけ家事をしたり、テレビを見たりしてその場を離れている傾向があります。

出火用途 (単位：件)	合計	他の部屋で仕事をした	テレビを見た	食事をした	電話に出た	その場を離れて子供の世話をした	他の部屋で片付け物をした	用便にいった	外出した	寝込んだ	その場を離れた	雑談をした	その他
合計	104	17	14	12	8	7	6	6	6	5	4	19	
共同住宅等	66	8	10	7	6	3	5	4	2	5	2	14	
住宅	38	9	4	5	2	4	1	2	4	-	2	5	

表9 用途別出火理由

◆ 天ぷら油火災の事例

事例1 天ぷらを加熱していることを忘れたため出火した火災(11月・葛飾区)			
構造・用途等	防火2/0 住宅	出火階・箇所	1階・台所
焼損程度	建物ぼや 植物性油若干、換気扇若干焼損		
<p>この火災は、住宅の1階台所から出火したものです。</p> <p>出火原因は、火元者(30歳代女性)がガステーブルで天ぷらを揚げるためにフライパンに植物性油を入れてハイカロリーバーナーで加熱しているのを忘れ、その場を離れたため出火したものです。</p> <p>火元者は風呂場付近で入浴準備をしていると、台所に設置してある住宅用火災警報器の鳴動に気づき、台所へ向かうとフライパンから高さ30cm程度の炎が上がっているのを発見しました。慌てて台所にあった容器に水道水を入れフライパンに向けて水を掛けると、炎が1m程度立ち上がり拡大しました。その後、自宅の電話から119番通報しました。</p>			

事例2 小学生が油を加熱し過ぎたため出火した火災（12月・江東区）			
構造・用途等	耐火造 6/0 複合用途(事務所・共同住宅)	出火階・箇所	6階・台所
焼損程度	建物部分焼1棟 床面積2㎡、レンジフード1等焼損		
<p>この火災は、複合用途の共同住宅部分6階の台所から出火したものです。</p> <p>出火原因は、居住者の小学生が揚げ物を調理するために植物性油を加熱していた際、どのくらい温めればよいか分からなかったため、時間の経過とともに油が過熱され出火したものです。居住者の小学生が冷凍食品のハッシュドポテトを揚げるために両手鍋に植物性油を加熱し、少し煙が立ち上がってきたので温まったと思い、冷凍食品を入れようとした際、炎が立ち上がりました。火元建物1階事務所の勤務員は、自動火災報知設備が鳴動したので外に出て確認してみると、6階の窓から白煙が出ていたため携帯電話から119番通報をしました。火元建物1階の勤務員は、6階へ駆け上がり出火室内へ入るとガステーブルからレンジフードへ炎が立ち上がっていたため、フライパンに水を汲み掛けて消火しました。</p>			

ガステーブル等による火災を防ぐポイント

- ・ ガステーブル等の火気を使用している時はその場を離れず、離れる際は短い時間でも火を消しましょう。
- ・ ガステーブル等の周囲は整理整頓し、可燃物などの燃えやすいものは近くに置かないようにしましょう。
- ・ ガステーブル等の周囲に付着している油や食品は拭き取りましょう。
- ・ ガステーブル等の上には一時的でも、物を置かないようにしましょう。誤ってスイッチが入ったりして火災に繋がる恐れがあります。
- ・ 調理をする時は、着ている衣服の袖や裾に燃え移らないように注意しましょう。